



臨床研究に関する情報の公開

作成日: 2025/08/21

研究課題名	高齢発症ループス腎炎の臨床的特徴についての検討
研究の対象	2000 年から 2024 年までに田附興風会 医学研究所 北野病院にて腎生検を受け、日本腎臓学会の運営する腎臓病総合レジストリーへの参加を希望された方
研究目的・方法	ループス腎炎 (lupus nephritis:LN)は全身性エリテマトーデス (SLE)は若年女性に好発する疾患であり、内、30-60%の患者でループス腎炎 (lupus nephritis:LN)を発症します。LN は末期腎不全の主要原因の一つであり、SLE 患者の QOL や生命予後に大きく影響します。50 歳以上で発症した SLE を高齢発症ループス腎炎(Late onset SLE)は定義され、50 歳未満で発症した SLE (early onset SLE)と比較して、低補体血症が少ない(Jacques Boddaert et al. Medicine(Baltimore). 2024)等、従来の SLE とは異なった特徴を持つことが知られています。高齢発症ループス腎炎の臨床学的・組織学的特徴病理所見・臨床的予後について本邦での既報はほとんどありません。 我々は、2025 年度腎臓内科学会総会にて高齢発症ループス腎炎は有意差をもって腎機能が低下しており、蛋白尿が多く、血清補体が高値であり、腎組織において完全硬化糸球体と細胞性半月体が多いことを示しました。 本研究は当院での腎生検データベースを用いて、高齢発症ループス腎炎の臨床的特徴・組織学的特徴をより詳細に検討し、患者予後についての解析を加え、propensity score matching により生活習慣病による影響も考慮した高齢発症ループス腎炎の臨床的特徴について評価することを目的とします。 医の倫理委員会承認日～2030 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報の種類	情報：病歴、採血所見、病理所見、治療歴、腎予後、生命予後 等
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 電話：06-6312-1221、FAX：06-6312-8867 腎臓内科 客員研究員 半田貴也 研究責任者：腎臓内科 主任部長 松原 雄